



平成 30 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 日 本 ヒ ュ ー ム 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 大 川 内 稔  
(コード番号：5262 東証第一部)  
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 豊 口 直 樹  
[TEL03 - 3433 - 4111(代)]

### 日本ヒュームグループ中期経営計画に関するお知らせ

当社は平成 30 年度からの 3 ヶ年にわたる新中期経営計画「Evolution All Japan」(略称「E A J」)を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

新中期経営計画「E A J」では、前中期経営計画「Evolution All Japan」を継続することを基本としつつ、会社創立 100 周年に向けて継続的な成長および発展を目指してまいります。

当社グループを取り巻く経営環境は、競争の激化や市場構造の変化など、依然として厳しい状況が続くものと思われませんが、新中期経営計画「E A J」では以下の数値目標を掲げ、企業価値の向上に全社一丸となって取り組んでまいります。また、当社は新中期経営計画に沿って、安定的な配当を目指すとともに、総合的な株主還元の充実に努めてまいります。

#### 《数値目標》

	平成 29 (2017) 年度実績 (29/4 ~ 30/3)	平成 32 (2020) 年度目標 (32/4 ~ 33/3)
売 上 高	374.4 億円	475.0 億円
経 常 利 益	22.1 億円	25.5 億円
自 己 資 本 経 常 利 益 率	7.3%	7.5%
DOE (純資産配当率)	1.4%	2.5%

詳細につきましては、別添資料をご参照ください。

以上



## 日本ヒュームグループ 中期経営計画（2018年度～2020年度）

---

### Evolution All Japan - Road to the 100th -

前中期経営計画(Evolution All Japan)の振り返り	……………	P 1
外部環境の認識	……………	P 3
Evolution All Japan の基本戦略	……………	P 4
Evolution All Japan の業績目標	……………	P 8
株主還元方針	……………	P11

# 前中期経営計画の振り返り

主力のパイル事業、ヒューム管事業、下水道関連事業の持続的成長を図るとともに、セグメントおよびプレキャスト製品の事業基盤を強化。また、アジア地域における技術供与体制を強化

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
売上高	33,750	32,072	37,445
営業利益	1,894	1,498	1,678
経常利益	2,326	1,958	2,211
当期純利益( )	1,802	1,383	1,651

パイル事業では、中掘工法で業界No.1の支持力を誇るNew-STJ- 工法を関西地区で初めて施工。湾岸地区で優位性のある中掘工法の営業体制を確立

( )親会社株主に帰属する当期純利益



熊谷工場にセグメント、プレキャスト製品専用工場を新設

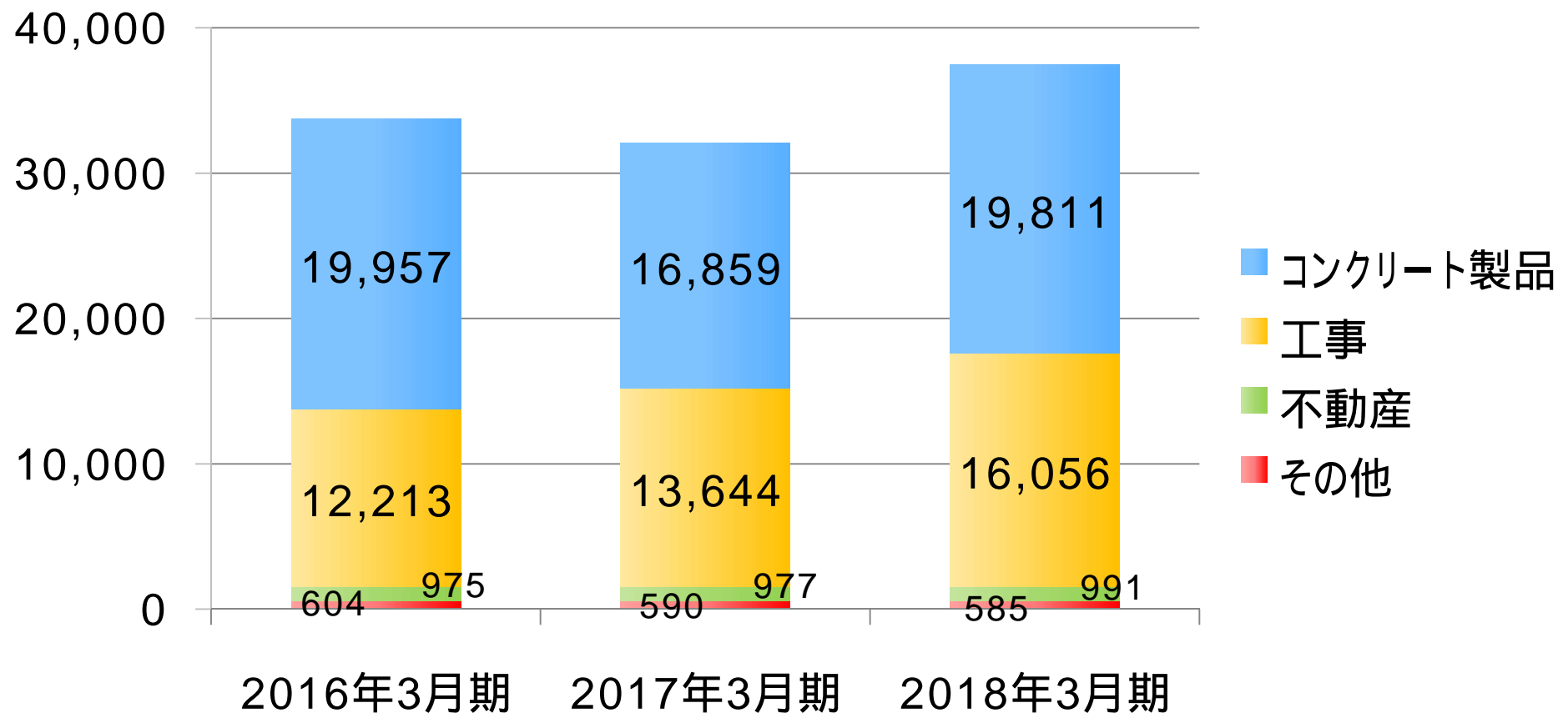
その他全国4工場でセグメント生産体制構築

NEXCO3社の公募した「車線区分柵」の技術提案で、選定技術に選出。道路部門の拡販体制強化。協会を代表して当社が提案

# 前中期経営計画の振り返り(業績推移)

売上高は過去最高を更新

主力のコンクリート製品事業、工事業について増収を達成



- 建設現場の担い手不足からプレキャスト製品需要が期待される他、防災関連需要やインフラ更新需要はほぼ堅調に推移すると期待できる
- 一方、東京五輪関連の特需が無くなる他、人口減を背景とする需要動向など楽観視できないと予想

五輪特需後は不透明

総人口減少、高齢化進展

防災需要期待（官民連携による浸水対策の推進）

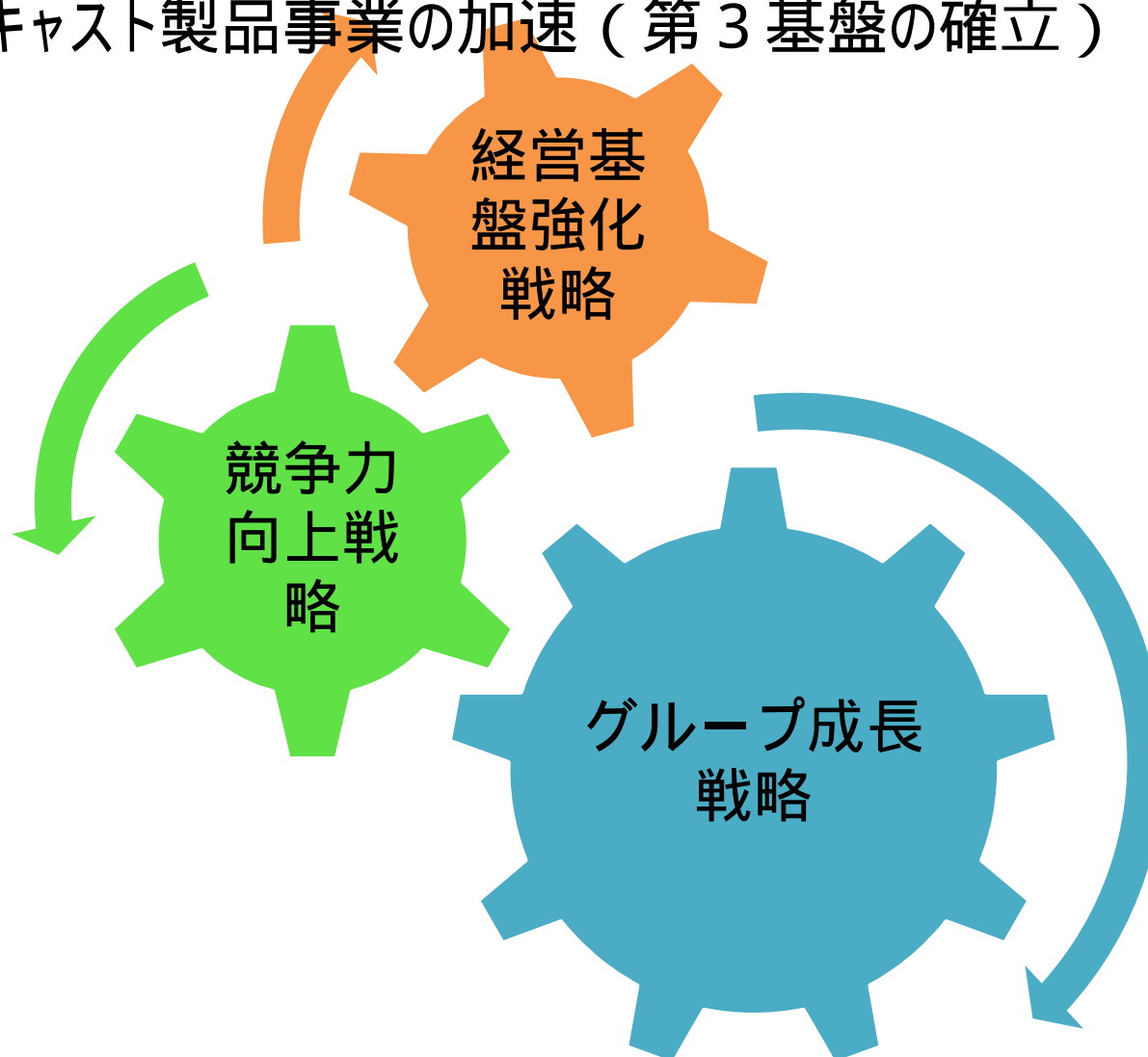
社会インフラの老朽化（施設の改築更新）

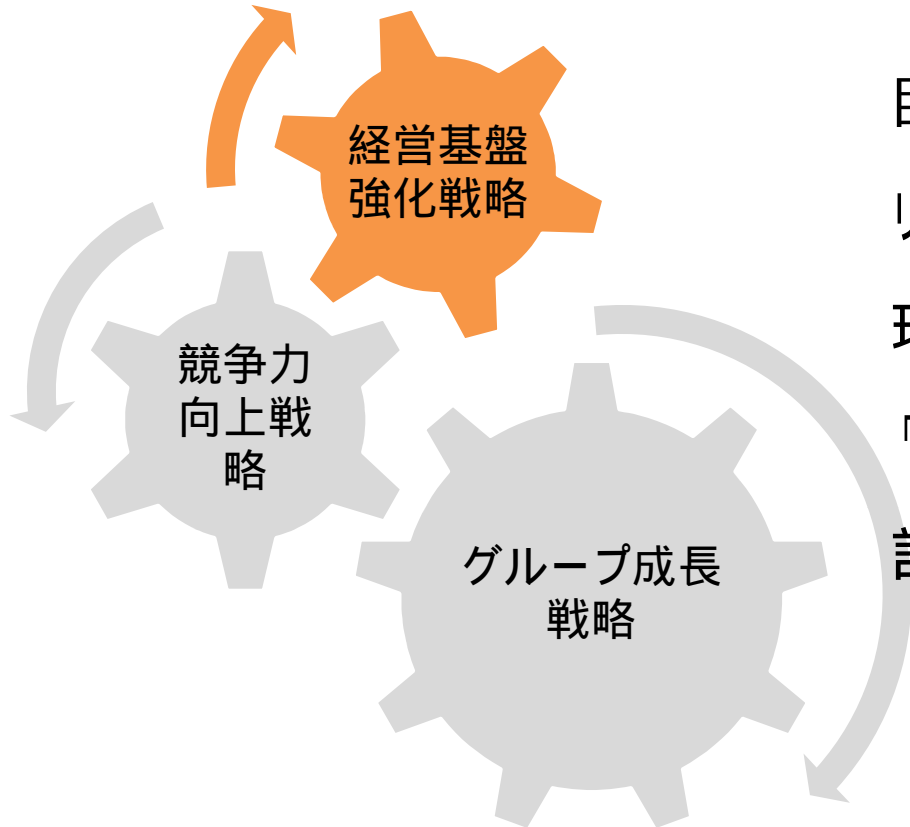
建設現場の担い手不足

総合コンクリート製品メーカーである

**当社の強み発揮**

- パイルとヒューム管の充実
- 付加価値プレキャスト製品事業の加速（第3基盤の確立）





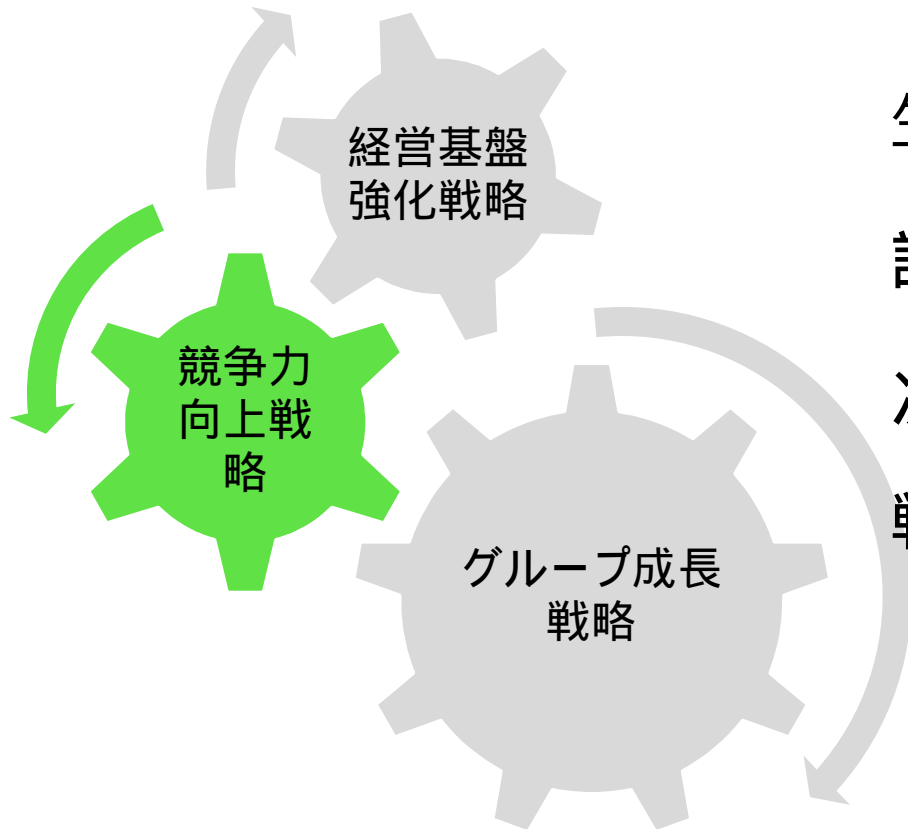
目標管理機能の強化

リスク管理体制の強化

現場力の強化

「見える化」による経営管理基盤の強化

計画的な人材育成、教育の強化

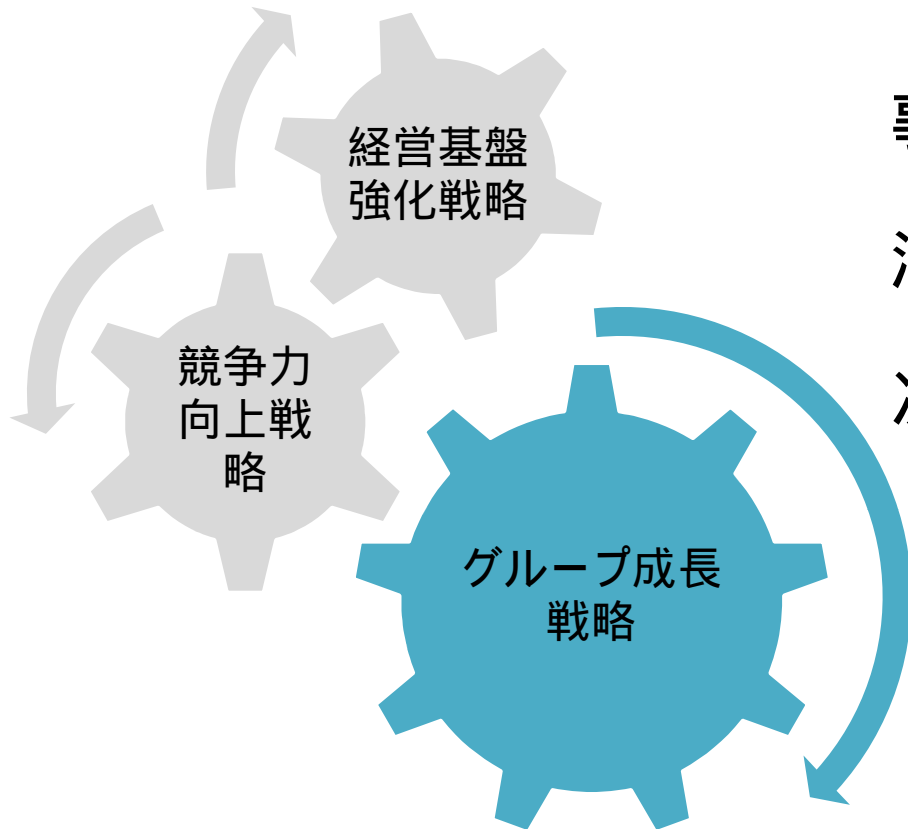


生産設備の戦略的な改善

調達、工事体制の戦略的な取組み

次世代生産管理設備、工事管理設備の  
戦略的な取組み





事業領域拡大への戦略的な取組み

注力事業への戦略的な取組み

次世代製品、工法開発の戦略的な取組み

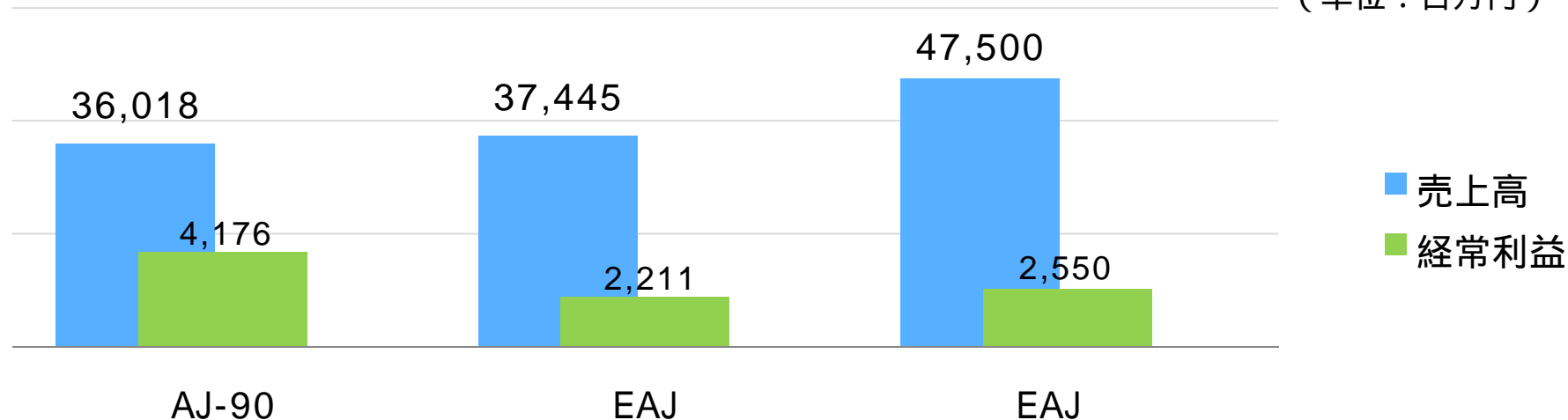
# Evolution All Japan の業績目標



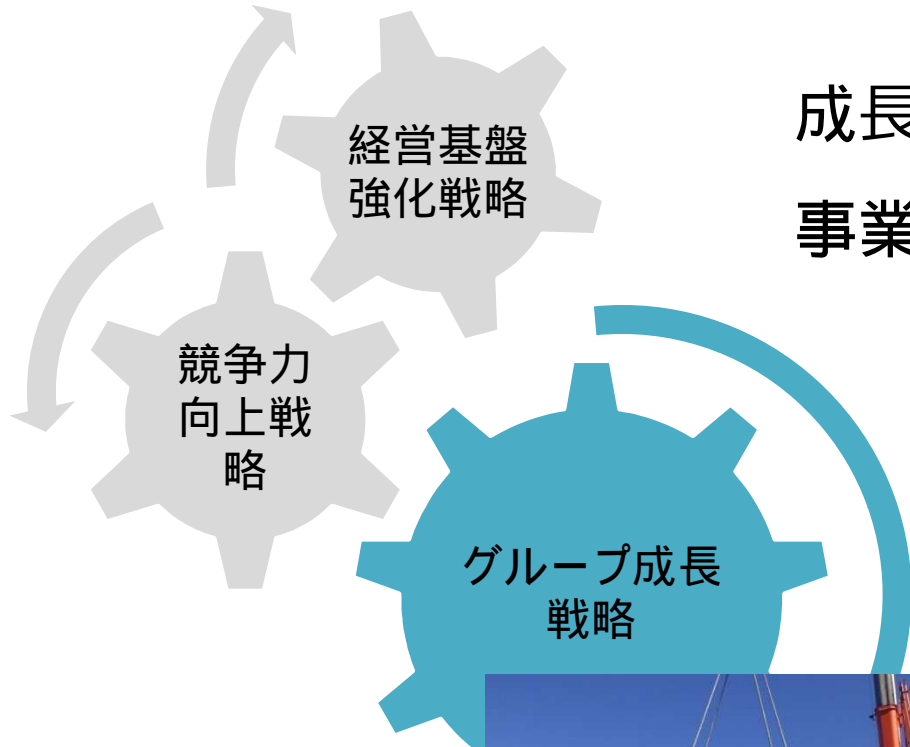
(連結、単位：百万円)

	EAJ最終年度実績 (2016年3月期 ~ 2018年3月期)	EAJ 最終年度目標 (2019年3月期 ~ 2021年3月期)
売上高	37,445	47,500
経常利益	2,211	2,550
自己資本経常利益率	7.3%	7.5%

(単位：百万円)



## 成長牽引となる浸水対策事業、高速道路更新事業の拡大を図る



<水害対策市場規模>  
3,927億円 / 年

(平成30年度  
国土交通省予算より)



<道路整備市場規模>  
3兆8,378億円 / 年

(平成30年度  
国土交通省予算より)



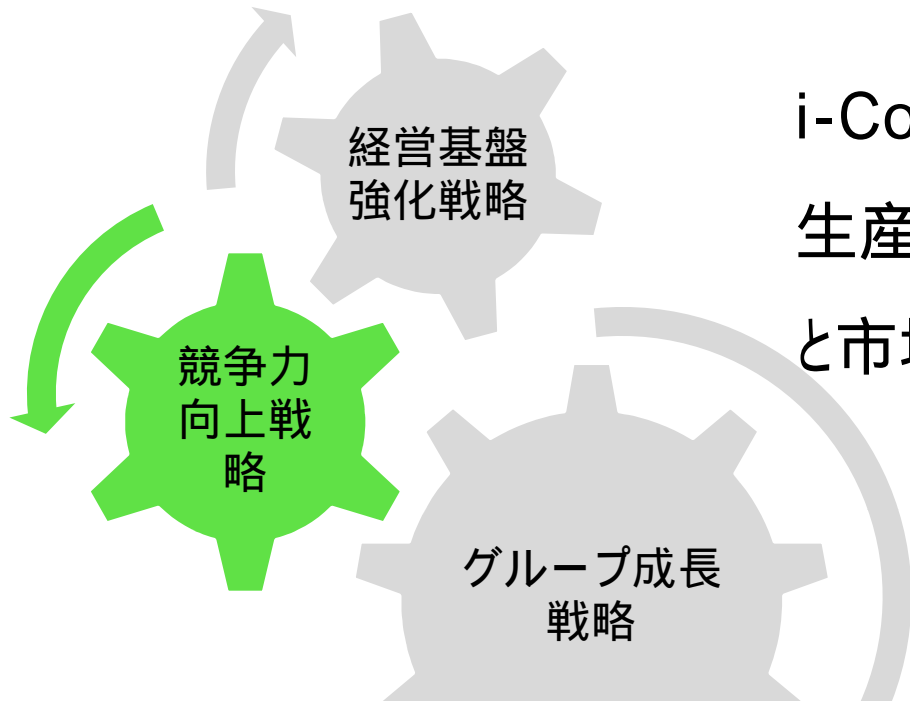
PGF (プレキャストガードフェンス)



貯留管 (セグメント)

# 工事体制の戦略的な取組み

i-Construction、BIM/CIMなど、建設現場の生産性向上に対応するための技術開発の加速化と市場開拓の促進



施工管理装置



スマートフォンを活用した施工管理

# 株主還元方針

	EAJ最終年度実績 (2016年3月期 ~ 2018年3月期)	EAJ 最終年度目標 (2019年3月期 ~ 2021年3月期)
DOE (純資産配当率)	1.4%	2.5%

日本ヒュームグループは当中期経営計画に沿って、安定的な配当を目指してまいります。

また、自己株式取得を推進し、総合的な株主還元の充実に努めてまいります。



安全・安心な社会づくりに貢献する。  
社会や顧客の信頼を得て、安定的な利益と持続的成長へ



日本初のヒューム管



マンホール隆起抑制状況  
(東日本大震災発生時 東京都江東区)



NIPPON HUME  
Group

【将来に関する記述等について】

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。